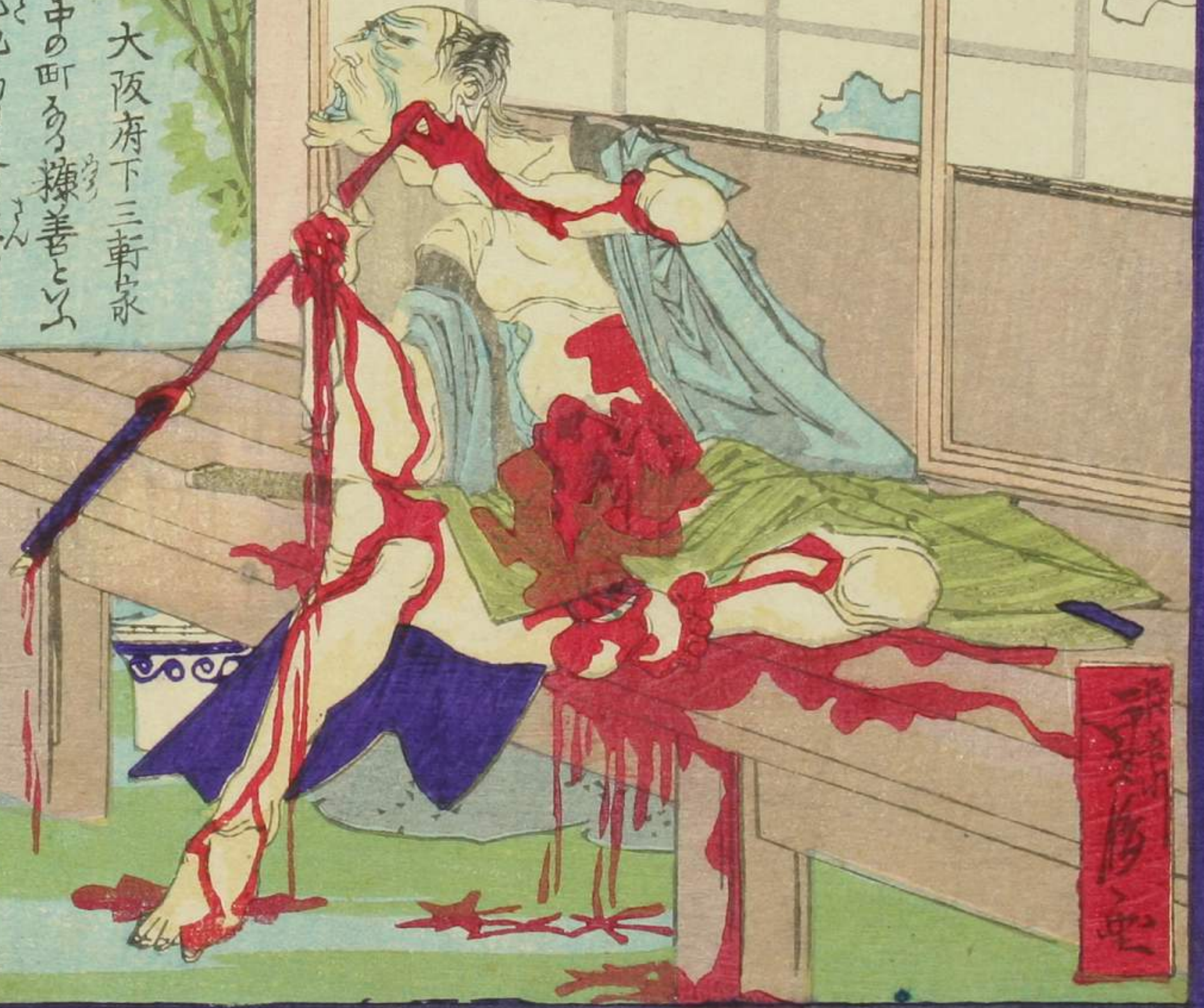


官許 錦 百 萬 事 新 聞 第 一 号



大阪府下三軒家

村中の町あり糠善といふ

男の元紀乃田辺の産ゆて

若かりしころ浪花津へ出て

瀧州鞋の稼が寸分怠ら

明治八年六十九才の齡をうて

星霜積て今年

むひろとて商法の

勉強若輩を欺き糠震ひて難をいさあつ内時の言変化且悲

もろくホシ方の相庭下直中と大半の損失を主候がく其先見も

糠の釘尾緒もたぬ子頼の見直り夫も苦ゆて土月十日午前時を

一期とて刃物を腹へ突きこもり頭の霜も消ゆて断末ぬ此の

中みを新聞紙に流布して給へといひ息をたて其騒ぎ

やど官より檢本ありて生准の立派ありを官美ら賞しなうとぞ

可憐辟心世を救め免後非業小

順ふらぬ死を

編輯人 徳三

錦 百 萬 事 新 聞

編輯人 徳三

錦 百 萬 事 新 聞